

米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の移設をめぐり、一九九八年に自民党の支援を受けて沖縄県知事に初当選し、九九年に名護市辺野古への代替施設受け入れに同意した稻嶺恵一氏(ハコ)は、本紙のインタビューに答え、政府側が移設の条件を守らざる、同意の前提は崩れたとの認識を表明した。菅義偉官房長官の政府側は、稻嶺氏の十六年前の同意を根拠に辺野古での新基地建設の正当性を主張している。(政治部・後藤孝好)